

【静岡】

園児を守る箱舟 津波避難シェルター購入

2012年10月28日

◆浜松・篠原町のさざんか保育園で

遠州灘海岸から約四百メートルにある浜松市西区篠原町の私立さざんか保育園が、箱舟型の救命艇を改造した津波避難シェルター二台を購入した。幼児なら一台に六十～八十人を収容でき、津波警報が出たら約百十人の園児全員を誘導する。海上での漂流も想定し、食料や衛星電話も備えてある。

内閣府による南海トラフ巨大地震の被害想定で保育園付近は最大二メートルの浸水域にある一方、最寄りの避難施設は五百メートル離れている上、より海岸に近い。

園児らの命を守る安全で迅速な方策として目を付けたのが救命艇。山口県下関市の造船会社「ニシエフ」に二台を計一千万円で発注した。二十七日までに一台が納入され、もう一台は十一月中旬に届く予定。



救命艇を改造したという津波避難シェルター＝27日、浜松市西区篠原町のさざんか保育園で



試乗する園児や保護者ら。園児なら60～80人入れるという

シェルターは長さ六・五メートル、幅二・六メートル、高さ二・八メートルの繊維強化プラスチック(FRP)製。本来は大型船舶備え付けの救命艇を、津波避難用に補強したり内壁に緩衝材を施したりしてある。同社によると、沿岸部の障害者施設や自治会から問い合わせはあるが、実用化は初めて。

二十七日には保育園で保護者向けの説明会があり、安藤香澄園長は「訓練を積むことで信頼度を高めたい」とあいさつ。二歳児の母親は「いざ津波警報が出ても、すぐ迎えに来られるわけではない。シェルターは心強い」と話していた。

(赤川肇、写真も)